



くを流れる秋川での清掃活動。メンバーの視線向けられている（4月27日、あきる野市で）

2015年の国連総会で採択され、貧困や飢餓、教育、男女の平等、働きがい、生産消費、生態系の保全など17項目の目標を掲げている。目標の下には、具体策や数値目標などを示した計169のターゲットがある。

# SDGs @スクール

東京都西部のあきる野市。豊かな自然環境から離れた豊かな自然環境が、地域に根ざした活動をしながら、SDGsのメッセージを発信し続ける高校がある。  
ネットワーキング事務局

## 東京都立五日市高校ESS国際交流部

# 「もったいない」世界に発信

## 環境を守る歌に思い込め

### Mission

#### 近くの川を清掃

4月27日の放課後、ゴミ袋とトンクを手にした高校生たちが坂道を下っていく。  
「頑張ってるね」  
すれ違った自転車のお年寄りが、笑顔で声をかけた。東京都立五日市高校ESS国際交流部が、学校近くを流れる秋川で行っている清掃活動は地元でも評判だ。

「自然豊かな環境だからこそ、外の世界に目を向け、どんな体験的に学んでほしい」  
2018年に同部を始めた狙いについて、顧問の中村俊佑主任教諭が語った。6年目の今年、部員は約10人。清掃のほか、英語や中国語、韓国語を使った国際交流、地域活性化などの活動に取り組んでいる。

「コロナ禍の21年には、メンバーがオンラインで台湾の姉妹校の生徒たちと英語で交流し、地域の紹介やSDGsの取り組みなどについて、意見を交換した。  
今年3月まで部長として引っ張ってきた貫井麻妃さん（3年）は「海外との交流など、様々な活動を通じて視野が広がった。楽しんでやっているとうちに成長できたと思う」と笑顔で話した。

### Action

#### 地域に支えられ

「日本にもSDGsの取り組みがあることを世界に知ってもらうために、歌を通じて日本のもったいない精神を発信しよう」21年には、ものを大事にする「もったいない」をコンセプトにした歌作りを乗り出した。大分県在住のシンガー・ソングライター山田証さんの指導を受けながら歌詞を作り、約半年かけて、オリジナルソング「MOTTAINAI」を完成させた。  
「何かもったいないか考えてみよう。自分自身に問いかけてみよう」。

曲は、音楽配信サイトで配信されたほか、メンバーたちが地域の森の間伐材を使った太鼓で演奏し、その動画をYouTubeで公開。世界に発信した。メンバーで意見を出し合って、MOTTAINAIダンスも考案した。

この取り組みは、麗沢大学などが主催する「高校生プレゼンテーションコンテスト」で最優秀賞に輝いた。  
活動は、多くの地域の人たちに支えられている。その一人、あきる野市で養蜂業に携わる羅久井俊介さん（38）はMOTTAINAIの作曲などをサポートしてくれた。羅久井さんは「今後も、同世代の子どももやってみたいと思う活動に取り組んでほしい」と期待を込める。  
貫井さんと共同で部長を務めた松本優菜さん（3年）は「活動を通して、多くの方にお世話になり、交流する中で、コミュニケーション力が高まった」と充実感をにじませた。

### Challenge

#### 無駄なくす工夫

メンバーは7月、小学生などが集まるイベントで、アクセサリーづくりを楽しみながら、「もったいない」の考えも学んでもらおうと準備を進めている。

6月19日の放課後。練習のため、隣の檜原村で、不用品から新たな商品を生み出す「アップサイクル」を活用したアクセサリーを手がける高木美穂さん（41）を招き、ペットボトルを利用したプレスレットの作り方の指導を受けた。ペットボトルを小さく切ったトースターで加熱。筒状のプレスレットを完成させた。うまく筒状にならなかった小片の使い道をどうするか。メンバーの一人が「額縁の角に付けて、おしゃれに飾ったら？」と提案すると、高木さんは「いいね。やっぱり発想が柔らかい」と笑顔でうなずいた。常に「もったいない」を意識して、使えるものは無駄にしないように工夫する。

今後も、地域の様々な大人と関わりながら、子どもへの指導や、地域イベントでの「MOTTAINAI」の演奏など、SDGsの実現に向け、地道に取り組む考えだ。4月に部長に就任した中島凜さん（2年）は地元・あきる野市の出身。「部活を通して、地域の良いところに気付くことができた。これからも魅力をどんどん発信していきたい」と意気込む。  
あきる野の豊かな自然の中で学ぶ高校生たち。今後も、活発にSDGsのメッセージを発信していく。

### 今回の主な目標



### ワードラボ

### もったいない (MOTTAINAI)

物を粗末に扱うことを惜む、日本文化を象徴する言葉。2004年にノーベル平和賞を受賞したケニアの環境副大臣ワンガリ・マタ伊さんの運動で世界的に有名になった。



メンバーたちが考えた「MOTTAINAIダンス」  
（3月6日、五日市高校で）



「MOTTAINAI」の動画はこちらのQRコードからご覧いただけます。



高木さん（中央）の指導で行われたアクセサリーづくり。貫井さん（左）、松本さん（右）も積極的にアイデアを出し合った（6月19日、五日市高校で）

### 編集後記

「川の上流は、ごみもまだ少ないんですよ」。アップサイクルアクセサリーづくりを指導した高木さんが

語っていた。川は海への入り口。上流のごみを減らそうという活動は、地球全体の環境を守ることにつなが

るだろう。高校生たちがオリジナルソング「MOTTAINAI」に込めたのは「最後まで、工夫して使

尽くそう」というメッセージ。活動を通じて知り合った大人から得た知識が、次の世代、さらにその次の世

代へとつながっていく。「もったいない」のサイクルが続いてほしいと思う。  
（石橋）